

平成 30 年度 第 9 回 北区自治協議会 議事概要

日 時 平成 30 年 12 月 20 日（木曜）午後 3 時 00 分から午後 4 時 45 分

会 場 北地区コミュニティセンター2 階 大ホール

出席者 委員

倉島会長、松田副会長、赤間委員、阿部(康)委員、五十嵐(隆)委員、
本間(藤)委員、山賀委員、若月委員、渡邊委員、渡邊委員、阿部(淳)委員、
内川委員、川居委員、川島委員、工藤委員、後藤委員、小林委員、高口委員、
高橋委員、真壁委員、村中委員、阿部(美)委員、梅津委員、岡委員、
本間(久)委員、阿部(恵)委員 計 26 人

(欠席：五十嵐(紀)委員、上松委員、曾我委員、若尾委員)

事務局

[北区役所関係]

区長、副区長兼地域総務課長（以下「副区長」）、区民生活課長補佐、
健康福祉課長、産業振興課長、建設課長、北出張所長、
北区農業委員会事務局長、北下水道分室長、消防局北消防署長、
北区教育支援センター所長、豊栄地区公民館長、地域総務課長補佐 2 人、
地域総務課員 5 人

傍聴者 1 人

内 容

1 開会

2 議事

(1)平成 31 年度北区「特色ある区づくり事業（案）」の提案について

倉島会長

(1)平成 31 年度北区「特色ある区づくり事業（案）」でございますが、この提案について、担当課長から説明をお願いします。なお、この件については、市長から自治協議会に意見を求める旨の依頼が届いております。各担当課長の説明の後、ご意見をお伺いしたいと思います。担当課長、よろしく願いいたします。

産業振興課長

議事資料 1-1 の番号順に、説明させていただきます。

「海辺の森共創参画推進事業」ですが、新規事業で、来年度から 3 年間の計画です。海辺の森の保全活動として、住民とボランティア団体、大学などと連携して保全活動を行う任意団体を支援していきます。また、海辺の森の資源を活用したコミュニティビジネスの支援を進める予定です。

保全活動については、国県補助金を活用し、この 5 年間で 5 万 4,000 本の松の植栽が終了しました。今後は、植えた松を育てる活動が主となりますが、地域の皆さんの協力が無いと育てるのは厳しい状況でございます。ボランティア活動として、一緒にお願いしたいと考えております。

もう一つが、コミュニティビジネスの支援です。今年 6 月 1 日、南浜 CB カンパニーという任意団体を設立いたしました。地元が中心となり、コミュニティビジネスに向かって活動しているところでございます。昨年は、約 25 万円の資源を活用した物販を行いました。今年度は 12 月時点で、このまま予定通りにいくと 70 万円から 80 万円くらいの売上につながると思われま。参加していただいた方には、多少なりとも謝礼を出しつつ、収益は、海辺の森の資源保全費用に充てさせていただければと考えております。

建設課長

「松浜海岸の環境整備と地域活性化」事業は、継続 2 年目になります。今年度は基本的に、飛砂防止とひょうたん池の埋没防止を目指しながら、子どもたちに地域の宝を認識してもらおうということで進めている事業で、今年度は松浜小学校の 4 年生が 95 名、計 200 名が参加してアキグミを植樹しました。昨年からは国からも支援が付き、地元の自治会とボランティアサポートの契約を行って、アキグミ 2,700 株のうち 300 株が国からの支援分、またそのほか手袋などの支給もいただき、国と市と地元とが一緒に整備している事業です。

本年度から 3 か年間で整備する計画になっておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

副区長

「北区賑わいづくり事業」についてです。平成 31 年度、来年度からの新規事業とされてはいますが、平成 28 年度、平成 29 年度、平成 30 年度と 3 年間、「新崎駅賑わい創出

事業」として取り組んできたものを、事業名を変えて引き続き 3 年間、区企画事業として行うものです。

事業の目的は、新崎駅の利用者が一日当たり 2,800 人前後と横ばいであることから、一日当たりの利用者が 3,000 人以上となるように利用者増を図るものでございます。

来年度の事業内容につきましては、6 ページに記載のとおり、新崎駅周辺にのぼり旗の設置、花壇の植生、あるいはイルミネーションの設置などを予定しているところでございます。

産業振興課長

4 番目の「魅力発信キタクなるプロジェクト」は産業振興課の担当です。

市内外、また県外からもご来場いただき、交流人口を高めるため実施を予定しています。これまでも 3 年間「キテ・ミテ・キタク魅力発信プロジェクト」に取り組んできましたが、少し内容を変えて再度、進めていきたいと考えております。

具体的には、平成 31 年 10 月から 12 月末まで、新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーンがございします。これに合わせ、ガイドブックなどによる PR を検討しているところです。最近は、インバウンド事業にも取り組み始めており、来年度から 3 年間で進めたいと思っております。継続的に実施する部分では、阿賀野川ござれや花火の会場までの送迎シャトルバス運行ですが、この枠内で検討しております。

続いて、「次世代農業」推進事業です。平成 30 年度からの継続事業になります。北区の特産物について、耕作放棄地を少しでも解消するため、「しるきーも」と称されるシルクスイートの栽培を今まで以上に拡大していきます。また、農業の後継者が少なくなり、作業をする人が減ってきているため、労力を少しでも減らしていきたいということで、トマトハウスに ICT を導入するなど、IT 技術をより広く知っていただこうと考えております

ICT といってもいろいろな設備がございします。取り組みやすい機械や施設にするのはどうすればいいかなど、具体的に検討し始めています。一般的には、大変な困難で資金を要する事業だと思われる方も多いようですが、実際はそうではありません。安く導入する方法もあるので、今後、ご紹介していきたいと思っております。

また「しるきーも」のブランド力の強化ですが、行政だけでは拡大するのは難しいため、今年度は、笹山小学校の児童に参加してもらいました。学校で「しるきーも」を植え、収穫された芋を使ったお菓子を、子どもたちに考えてもらい、業者に商品化してもらいました。さらにそのお菓子は、新潟伊勢丹の「NIIGATA 越品」で販売させていただ

き、約 54 万円の売り上げがありました。笹山小学校の皆さんには、アルビレックス新潟の「北区民デー」の試合時に競技会場でも PR してもらいました。

続いて「地域商業魅力創生プロジェクト」です。継続事業で、来年度で 3 年目となります。葛塚地区と松浜地区の二つに絞り、それぞれの地域で設定したテーマを用いた商品やコンテンツ開発と PR を行っていただいております。

葛塚地区においては、水と土の芸術祭 2018 に合わせ、似顔絵を商店街などに展示するプロジェクトを支援させていただきました。また、葛塚市の看板の塗り替えなども今年度実施いたしました。松浜地区につきましては、「ござれや」という名前を入れた企画、ござれや花火や花火女子、こらっせ松浜などの活動支援をさせていただきました。

平成 31 年度については、シェアキッチンの取り組みも予定しております。可能であれば、味噌作りの体験等もこの事業の中で実施したいと考えています。

副区長

次に、地域「ひと・まち」パートナーシップ支援事業でございます。新規事業となっておりますが、平成 28 年度、平成 29 年度、平成 30 年度と 3 年間、「大学生と地域の協働による人・地域・学校づくり支援事業」として取り組みました。それが大変好評でしたので、引き続き来年度から 3 年間で行う事業です。

新潟医療福祉大学の学生を地域や小中学校に派遣し、地域活動や学習支援、スポーツ支援などをやってもらうことにより、人材育成を行うというものでございます。

健康福祉課長

次に、介護予防のための専門職派遣事業でございます。平成 30 年度からの事業で、平成 31 年度は 2 年目となります。

新潟リハビリテーション病院などの協力を得て、高齢者が日中集まるコミュニティセンターなどへ作業療法士、医学療法士、栄養士、歯科衛生士等、専門職を派遣し、介護予防に関する健康講座を開催しております。高齢者が自ら介護予防に取り組み、健康増進に寄与することを目的に実施しております。

今年度は 6 月から開始しておりますが、10 月まで 37 回実施し、706 人の方からご参加いただきました。参加者からは、「高齢者でも毎日できる体操を教えてもらったので、日常生活に取り入れて継続してできた」という声や、「食事の改善による健康維持について学ぶことができ良かった」という声がありました。また、「誤嚥性肺炎について関心があったので話を聞けて良かった」、「認知症と物忘れの違いが分かって良かった」

などのご感想をいただきました。

来年度についても、コミュニティ協議会や老人クラブなどにお声掛けさせていただき、実施したいと思っております。

産業振興課長

続いて、「北区総合スポーツ事業」です。

継続事業で、来年度は2年目となります。この事業では、各団体のスポーツ開催の支援や、全体的に開催するスポーツ事業を計画させていただきます。参考までに、今年度ですと、フロアカーリングやスポーツレクリエーションを体験していただきました。また、「北区元旦歩こう会」は毎年1月1日に実施している事業です。スポーツイベントはなかなか参加人数が増えない状況ですが、「北区元旦歩こう会」は平成29年度586人、平成30年1月1日は617人と、年々参加者も増えている人気の事業となっております。

副区長

次に、10番「公共施設利用促進バス事業」です。区企画事業としては平成29年度から行っており、来年度で3年目となります。主に夏休み期間中の子どもが、松浜地区からでも、遊水館、水の駅「ビュー福島潟」などの旧豊栄地区にある公共施設が活用しやすいように、無料のバスを運行するものでございます。

次は11番の「郷土芸能伝承支援事業」です。平成29年度から行っている事業で、これも3年目となります。北区に伝わる神楽、太鼓などを地域の人に知ってもらうために、発表の場などを提供するとともに、芸能の映像資料をDVD化し、教材として各学校に配布する予定でございます。

健康福祉課長

12番目の「地域子育て支援事業」は、来年度で3年目となる事業です。

子育て仲間づくりなど、地域で子育てを支える体制を構築し、不登校や引きこもり、児童虐待の予防に繋げるなど、児童の福祉向上と健全育成を推進することを目的に実施しております。

当事業には、四つの柱がございます。

まず、支援拠点での子育て支援講座ということで、NP講座やパパ向け子育て支援講座、または支援者向けには、母親の悩み相談を受ける保育士を対象に、傾聴スキル講座も実施しております。

次に、北区の情報誌「まま KiTa」の発行です。子育て支援センターや幼稚園、小児科などにも配布し、子育てに関し役立つ情報を分かりやすく発信しています。昨年度は 3,500 部発行しました。

次に、「北区ふゆっこまつり」です。実行委員会への負担金支出となりますが、昨年度は 10 回目を迎え、会場も、新潟医療福祉大学とさせていただきました。実行委員長の川島委員からも、後ほどご説明いただけるかと思えます。

昨年の実施状況としては、来場者は 2,100 名ほどで、学生ボランティアや地域のボランティアを含めて全部で 2,400 名の方にご参加いただきました。今年度は、2 月 24 日に開催されますが、各コミュニティ協議会や各地区の青少年育成協議会など多くの方々からご協力、ご尽力をいただいで実施させていただきます。多くの方からご参加いただきたいと思っております。

最後に、子育て応援会議では、地域で子育てを支え合うことを目的とした子育て応援カフェを早通健康福祉会館で実施しております。子育て世代の方々にも気兼ねなく、子どもを連れてお茶を飲み利用していただいでしております。地域の人と顔見知りになり、自然な交流が生まれ、効果的な支え合いに繋がることを目的に実施しております。

昨年度は、県外から転入して間もない、ゼロ歳児のお母様から、地域の中にこのような場所があつてよかったというご感想をいただきました。

次に、認知症予防（もの忘れ検診）事業ですが、こちらは平成 31 年度に 3 年目を迎えます。

認知機能が低下している高齢者を発見し、認知症への移行を防ぐとともに、病状の進行を遅らせるための適切な治療やサービスに繋げることを目的としています。北区医師会の協力を得て、平成 29 年度から実施しております。

平成 29 年度では、65 歳以上の全対象者 1 万 9,394 人に対して、2,199 の方が受診してくださいました。受診率は 11.6 パーセントでした。また、受診された方のうち、要経過観察の方が 44 人で全体の 1.9 パーセント。要精密検査は 23 人で全体の 1 パーセントとなっております。要精密検査 23 人のうち、軽度認知障害の方が 6 名ほど見つかりました。軽度認知障害は、早期に発見して早期に治療することで、認知症の進行を遅らせることができます。また、早期に発見することで高齢者本人の意思を尊重した上で適切な医療や介護サービスの利用に向けた心構えや準備ができます。この受診者の家族の声としては、家族が高齢者の変化に気づいていても、なかなか医療機関に繋げることができず困っていたところ、特定健診のついでにかかりつけ医から「もの忘れ検診」も一緒に実施してもらえて、治療に繋がったと感謝の言葉をいただいでしております。

来年度も、かかりつけ医や地域包括支援センターと連携しながら、地域の中でしっかり支える体制を整備していきたいと思っております。

副区長

続いて「地域防災ひとづくり」です。現在、北区には防災士が 13 人いらっしゃいます。今年度、自治協議会委員提案事業でもう 8 人増える予定です。現在、木崎地区や太田地区のコミュニティ協議会に防災士は現在いませんが、この 8 人の中に、木崎と太田地区の方もいらっしゃいますので、区内のコミュニティ協議会全てに防災士が配置できることとなります。

こうした防災士の方々が、災害時に地域のリーダーとして活躍していただくために、様々な研修や訓練が必要になってまいります。そこで来年度から 3 年間かけて、防災士のスキルアップ講習会や訓練を実施いたします。併せまして、防災訓練の手引書も作成いたします。

健康福祉課長

自治協議会委員提案事業「生きる力・支えあう力育み事業」について、関連部会は福祉教育部会です。

当事業については、梅津委員から、乳幼児期の親子への支援の重要性についてご提案いただき、本間（久）委員や若月委員からは、「地域の茶の間」の有効活用や若者の協力による高齢者の健康増進や介護予防など、多くの提案をいただきました。それらをまとめて、二つの事業とさせていただきます。

一つ目は、全てのママ・パパ応援プロジェクト事業です。乳幼児期から、多くの人と関わりを持ち様々な経験をすることで、たくましく生きる能力が養われます。また、現在多くの親がスマートフォンに依存した孤独な子育てを行っていますが、子育てについて大事なことをまとめたテキストを、自治協議会の福祉教育部会と公民館の社会教育主事や家庭教育アドバイザー等のご協力によって作成し、親たちの学ぶ機会となるよう工夫しながら、配布します。生きる土台となる非認知能力を養ってもらえるように働きかけ、乳幼児期の育児環境の改善を図っていきたく思っております。

二つ目は、「大学生と協働！地域住民の健康と福祉を支えるまちづくり事業」です。こちらは、新潟医療福祉大学と連携し、医療と福祉を学ぶ学生がこれまで以上に地域と関わる機会を増やし、健康寿命の延伸や支え合いの機運を醸成して、地域の活性化に結び付けることを目的に実施します。

来年度に関しましては、社会福祉学部社会福祉学科の学生から地域に入ってもらいます。介護技術等に関するセミナーを開催し、家族の介護負担の軽減や、いつか訪れるかもしれない家族の介護に備えられるよう、食事や入浴、移動介護など介護の基礎的な知識や技術を身につけていただくとともに、学生と地域との繋がりを深めてもらいます。将来的には社会福祉学部だけではなく、ほかの学部生によるセミナーの開催も視野に入れて、事業を展開していく予定でございます。

私ども健康福祉の区づくり事業、介護予防のための専門職派遣と併せまして、広く地域の皆さまにお声掛けさせていただきたいと思っております。

産業振興課長

自治協議会提案事業の2番「潤いの福島潟創出事業」は、自然文化部会が関連部会となります。

この事業に関連して、自治協議会からも提言をいただいた福島潟のラムサール条約登録に向けて、様々な取り組みを進めることを考えております。具体的には、地域における理解をさらに高いものとするためのパンフレット作成や、現在、かさ上げ工事を行っている福島潟の今後の活用について、ワークショップなどで検討を進めていきたいと考えております。

次に、3番目「子どもと音楽の出会い創出事業」です。区内の小学生を対象に、音楽を身近に楽しむことのできる機会を設ける事業です。方法として当初考えていたのは、各小学校に音楽家が出向き、学校で音楽を体験してもらうものでしたが、演奏家としては、各学校に出向いて音楽を聞かせようとしても、なかなか上質の音楽にならず、レベルを上げることは相当難しいということでした。良い音楽をお聴きいただくためには、北区文化会館のホールでの開催が望ましいということでした。開催時期については、9月中旬くらいではどうかと、内々に相談しております。会場までの子どもたちの移動手段は、バスになると思います。

区民生活課長

4番の自治協議会委員提案事業「北区みんなで見守り隊」について、関連部会は地域づくり部会でございます。

今年、西区で発生した事件以来、地域での見守り活動に対するニーズがさらに高まっております。現在、北区内では、防犯、交通安全、高齢者福祉等の分野で、既に多くの団体の皆さまから活発な見守り活動を展開していただいております。しかし、お互いの

活動内容などの情報交換を行う機会は、少ないのが現状でございます。そこで、この事業は、これら見守り活動を行う団体を繋ぐ機会を設け、ネットワークを構築し、情報を共有するとともに、北区の安心安全、支え合いの意識の醸成を図り、さらには犯罪の抑制に繋げることを目的とするものでございます。

工藤委員からは当初、新たな見守り隊の結成のご提案をいただいておりますが、いろいろな団体からの人選は難しいというところから、情報交換の場を設ける事業とさせていただきたいと考えております。また、見守り活動を行っている旨を示すグッズを作成し、見守り活動の際に携帯してもらうことも検討しております。

倉島会長

ありがとうございました。ただいま担当課長から特色ある区づくり事業平成 31 年度提案の説明がございましたが、先ほど申し上げましたとおり、市長から自治協議会の皆さまの意見を求める依頼がきておりますので、もしご意見がございましたらこの場でお願いしたいと思います。

何かございませんか。

松田副会長

「地域防災ひとづくり」事業についてお聞かせください。

防災士を養成する事業ということで、私たちのコミュニティ協議会でも昨年 2 人、今年は 2 人が研修に行っております。大変良いことだと思います。

お尋ねしたいのは、防災訓練に必要な指導手引き資料を作るということですが、配布の対象はどの範囲かということです。

また二点目ですが、平成 32 年度以降、年間 1、2 回の防災訓練の企画運営をしていくということですが、今は各コミュニティ協議会でも定期的に防災訓練を年間計画として位置づけて行っています。それらとの兼ね合いはどうなるのでしょうか。これからは、防災士が企画して、我々に参加を要請するのか、どのように想定されているのか伺います。

副区長

防災訓練の手引書は、専門家や指導者からいろいろな助言をいただきながら作成します。防災士といっても、地域でリーダーとして活躍するまでに訓練が必要となります。まずは地域の防災訓練に入り、手引書などを参考に防災訓練のリーダーとして活躍でき

る、その自信や経験を得てもらえるよう支援します。それぞれの地域に合わせた手引書も必要になるかと思いますが、具体的な作成内容などは、これから詰めていきます。

現在行っている防災訓練の指導実習については、平成 32 年度から、現在各コミュニティ協議会でも行っている防災訓練の中で、防災士がリーダーとして企画運営していきけるようにしていきたいと考えております。

平成 31 年度は、まずはスキルアップを主眼とします。防災士のスキルアップのための手引書を作り、それを防災士に配布して、活用していただくということになります。

松田副会長

つまり、防災訓練の手引書の対象は防災士で、平成 32 年度以降に年間 1、2 回実施する防災訓練というのは、既存の各コミュニティ協議会が実施しているものということでしょうか。そこに防災士が入り、リーダーシップを発揮していくのであって、別に新しく訓練を開催するのではない。既存の訓練に活躍の場をつくって具体化していくという理解で良いでしょうか。

副区長

はい。そのような形で考えております。

松田副会長

分かりました。

赤間委員

私の勘違いかもしれませんが、北区賑わいづくり事業は、新規で年間 100 万円の予算になっています。予算があるといつて、新崎ばかりで使えるものではないとは理解しておりましたが、200 万円の予算が 100 万円になったとすると、相当減額になった感があります。新崎駅前の花植えや、駅周辺のイルミネーションの点灯式でも、今年と同額の予算がつきそうだと話をさせていただきましたが、もう私は新崎駅に立てないのではないかと懸念しております。

副区長

新崎駅賑わい創出事業は、平成 28 年度からスタートしまして、平成 28 年度の予算は 50 万円でした。平成 29 年度も、名目上は 100 万円の予算がつきましたが、そのうち冊

子『100人インタビュー』の作成などで50万円を要しましたので、実質的には約50万円でした。つまり平成28年度、平成29年度と50万円ずつだったことになります。

今年度は、予算200万円のうち、新崎駅のイルミネーションに150万円の予算を付けました。新崎駅北口から旧7号までが非常に暗いということで、そこを明るくするために取り組んでおりますが、途中で空き地が多く、イルミネーションが付けられない箇所があり、関係者と調整しているところでございます。予算の執行は、遅れております。予算額は150万円というかなり大きな額ですが、これからイルミネーションなどをつけるため、申し訳ございませんが年内には間に合わないということで、年明け1月に入ってからでの設置で調整を進めております。当初は冬季のみということで話をしておりましたが、できれば通年明るくしたいというお話もいただいております。その辺も含めて、今、調整しているところでございます。

区企画事業は、平成28年度、平成29年度、平成30年度の3年間で終了となりますが、引き続き新崎駅の賑わいは必要であろうということで、50万円、50万円、150万円と付けてまいりました。来年度は平成30年度よりも少し落ちますけれども、100万円の予算で引き続き3年間、賑わいに繋がる取り組みを続けていきたいと考えています。

赤間委員

分からないような感じもありますが、結果的には、私が想像しているように、新崎駅の賑わい創出に取り組むということでよろしいでしょうか。

副区長

はい、そのとおりです。

赤間委員

ありがとうございます。それでは辞表は出さず、新崎駅に立たせてもらいます。よろしく願いいたします。

副区長

よろしく願いいたします。

川島委員

自治協議会委員提案事業の「生きる力・支え合う力育み事業」の②に、「健康寿命延

伸を図る」と書いてございます。提案でもありますが、北区総合スポーツ事業の中にエンジョイスports in 北区があり、そこでは区民の体力測定もやって、多くのデータが集まってきているという話を聞きました。子どもたちの測定データなどもかなり集まって、県外に紹介できるまでになったという話でした。

逆に、そのような体力測定を高齢者にもやっていただき、健康寿命延伸のために活用してもらってはどうかという提案です。

また、近年はフレイル（体力低下などによる心身の虚弱化）対策について、各処で取り組みがなされていますが、この北区では、こういった対策を行っているのでしょうか。フレイルで、自宅から出て来られない高齢者への対応は、どのように取り組まれているのか、お聞かせください。

健康福祉課長

ご提案いただいたように、エンジョイスports in 北区の中では、区民の方々、高齢者に限らず若い方にも体力測定などを行っていただいております。そのデータがあります。どのようなデータなのかを見て、活用を検討したいと思います。

次にフレイル対策でございますが、やはり大きな問題と捉えております。要介護認定に至る原因の2番目は、認知症です。本庁の担当課や地域包括ケア推進課、保健所や北区健康福祉課でも非常に大きな問題と捉え、「もの忘れ検診」を実施し、介護予防のための専門職派遣も行っております。フレイル対策についても、本庁担当課とも協力して少しでも早く認知症の方を発見できるように取り組み、また現在、試行段階の取り組みもございますので、方向性が見えたら、改めて皆さまにお話しさせていただきます。

川島委員

健康寿命の延伸については、別な話になるのでしょうか。

健康福祉課長

別ではございません。要介護状態に至る原因は、高血圧、脳血管疾患が一番となっております。健康寿命の延伸のために、血圧元気塾なども開催し、血圧に関して学ぶ講座や講演会の開催なども行っております。

岡委員

自治協議会委員提案事業の「子どもと音楽出会い創出事業」ですが、昨年までの「わ

くわくキッズコンサート」がなくなり、残念だと思っていたので、北区で独自の取り組みするのは大変嬉しく思っております。

格安でオーケストラが聴けるということもあり、孫も参加させていただきましたが、コンサート会場（りゅーとぴあ）は結局、大人が連れて行かなければ、子どもが行ける場所ではないです。しかし、どんな子どもでもコンサートホールに足を運べる機会があるということは、北区にとって誇りになると思います。ぜひ続けていただきたい。

この事業ですが、年齢や学年について、何年生くらいを対象にされますか。全学年ということは、予算的に難しいと思いますが。

産業振興課長

ご指摘のとおり、教育委員会で行っていた時の事業費は、バスの運送費や午前と午後のフルコンサートを開催し、総額 4、5 千万円を要しました。それを 200 万円の予算で実施するわけですから、フルコンサートは無理です。演奏者の日程の都合などありますが、可能な限り集めさせていただきますとお願いしております。

対象学年についてですが、現在考えているのは 6 年生です。残念ながら、北区文化会館ホールの座席数は 550 席ということで、全部の学校が一度に来ると入りきれません。さらに他学年も含めると、公演に何日間もかかり、この予算では厳しいのが現状です。

予算 200 万円の振り分けは、演奏側との調整になりますが、バスを全部の学校に回すとなると、予算の半分はバス代に消えます。残りの金額で、何人の方から演奏していただけるかが問題ですが、新潟市に演奏に来られる数名を考えております。

また、当事業をぜひ続けて欲しいということですが、これについては来年度の自治協議会委員提案事業で、基本的には単年度事業となります。次の年に、区企画事業に切り替えられるかどうかについては、ほかの事業との兼ね合いもありますので、現時点ではお約束できかねます。

岡委員

ありがとうございました。

川居委員

ママ・パパ応援プロジェクトに関連してですが、北区内に、産科も婦人科も無いということこそ、問題だと感じます。子どもを産める場所がないということで、私は子どもを産む時には江南区まで通いました。

やはり、区を挙げて産科や婦人科を誘致することが大事なのではないのでしょうか。産科の医者が少なくなっているとか、事情はよく分かりませんが、区内で産んで育てる、そのために大事なことの第一位は、医者をもたらしてくることなのではないのでしょうか。ぜひ、産科婦人科を誘致していただきたいと思います。

健康福祉課長

豊栄病院においては、平成 28 年度末で産科、小児科の医師がいなくなったと思います。確かに、子育ての基本的な環境として、医療機関の充実が求められます。昨年の区長と語る会でも、里帰りしてこちらで産めないというご意見をいただきました。豊栄病院では、豊栄病院運営審議会委員会があり、意見交換を行っておりますが、そこでもそのような意見をお伝えさせていただきました。病院長からは、医師が不足している現状と、小児科と産科については、その地域に何百人以上のお子様の出生がないと医師を置けず、病院も拠点化されつつあるという話を伺いました。

私どもとしては、切れ目のない子育て支援を目指して取り組んでおりますが、保健師が各病院の産科や小児科と連携を密にし、保健師と助産師がすぐに入って支援できる体制を取っております。

今回いただいた意見を病院にお伝えする機会がございますので、お伝えさせていただきます。ありがとうございます。

阿部（美）委員

子ども音楽の出会い創出事業について、確認ですが、対象は 6 年生という話があったと思うのですが、来年の 6 年生は、今 5 年生ですよ。既に体験できた学年と重なりませんか。

産業振興課

体験できたのは平成 29 年度の 5 年生です。当事業の対象とするのは、今年度の 5 年生で、来年度は 6 年生の学年です。

阿部（美）委員

重なりませんね、分かりました。

山賀委員

自治協議会委員提案事業の「潤いの福島潟創出事業」についてですが、この事業では、ラムサール条約登録に向けた取り組みのようになっております。

提案した時は、ラムサール条約登録後のことまで考えたつもりだったのです。ラムサール条約はワイズユース、いわゆる賢明な活用を理念として、貴重な自然資源を正しく利用することによって自然を守り、財産を守り、市民の生活を良くすることに主眼があると思うのです。賢明な活用をうたったラムサール条約登録を事業の終点とするのではなく、その先までこの理念を展開したいと提案したつもりでした。

実は、国内でラムサール条約に登録されている湿地は 50 か所を少し超えています。私自身も、河川の管理に携わったことがあります。気になるのは、ラムサール条約へ登録されると、過度な自然保護に繋がると考える人が多いことです。ワイズユースというのは賢明な利用であり、活用ですけれども、そのことが実は河川の管理者にも分からず、過度な自然保護と混同して河川や治水工事への影響を心配する人がありました。

平成 9 年に改正された河川法では、治水、利水のほかに河川環境の整備と保全が加わりました。自然環境との調和や、生活に近いところで河川の魅力を利用したり、楽しんだりしようということです。そういう立場からすると、河川管理をしていた私としても、賢明な活用、ワイズユースに賛成なのです。

福島潟については、第一期工事が間もなく終わります。水門もほぼ完成に近づいています。ラムサール条約へ登録し、併せて基本理念であるワイズユースを推進するとして、もし登録されなかったとしても、あの福島潟を守り、正しい活用をするということに取り組むべきだと考えます。

提案時には、若尾委員も活用について書かれていたと思います。ラムサール条約に登録されることも大事ですが、その後の活用やイベントの実施、放水路の利用や散策路の設定など、いろいろなことをワークショップで考えていきたいと思い、提案しました。

産業振興課長

ご指摘のとおり、ラムサール条約登録に向けた機運醸成と、賢明な利用の促進については、計画書にも書かせていただきました。

ラムサール条約の登録湿地になるとどうなるのかについては、自然保護が過度になると考える方もあり、まだ地域の方に理解を得られていないところがあります。現段階では、条約に登録されたら、今後の活用や工事もできなくなると心配する人がまだまだ多い状況です。そこを緩和しない限り、地域の方と一緒に活用を検討するのは、難しいと

考えております。

ワイズユースを基本理念とするラムサール条約への理解を広め、誤解を解消するために、分かりやすいパンフレットづくりや、潟の活用方法を検討したいと思っております。全体の活用を一度に考えるとすれば、反発があるかもしれませんが、堤防の周りやかさ上げた箇所だけでも活用できるように検討してはどうかと考えております。

また先日、潟環境研究所が主催する勉強会に参加してまいりました。様々な地域の活用例について知ることができましたが、引き続き勉強して、私自身も条約の理念をより深く理解したいと思います。

山賀委員

ラムサール条約に登録されても、実際には、今指摘されたように、特に治水事業を妨げる規則はありません。ただし、過度な自然保護と呼ぶような反応が出てくる可能性があります。しかしワイズユースの視点から検討すれば、ラムサール条約登録への理解と機運の醸成に繋がると思います。幅広い活動を許容していただきたいと思います。

産業振興課長

ありがとうございます。堤防のかさ上げ後の活用検討の際には、そのような意見も出てくると思います。すぐに実現可能かどうかは別として、いろいろな意見をいただきたいので、よろしくをお願いします。

梅津委員

自治協議会委員提案事業「子どもと音楽の出会い創出事業」について、少しお願いがあります。

小学5年生は今まで「わくわくキッズコンサート」で、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館に行き、東京交響楽団の演奏を聴く機会に恵まれました。すぐに事業効果は出ないとしても、豊かな心の育成に結びついていくと思いますし、この事業がなくなって大変残念に思っております。子どもの心を豊かにし、感性を育むことは大変有効なことだと思います。1年だけなどと言わず、継続していくことを視野に入れてやっていただければと思っております。

産業振興課長

事業の継続に関しては、まずは自治協議会委員提案事業として1年実施し、その後は

区企画事業として続けるのかどうか、結果を踏まえつつ検討することになります。「わくわくキッズコンサート」については、平成 29 年度に終了し、市議会でも復活してほしいという意見が議員から出ておりましたが、事業担当課は教育委員会になります。

区では、区づくり事業として出来る限り進めていければと思っておりますが、今の段階での約束は厳しいということをご理解いただきたいと思っております。

本間（久）委員

「子どもと音楽との出会い創出事業」について、お願いがあります。

ご存じかと思いますが、新潟市には、新潟市ジュニアオーケストラ教室や、能楽やコーラスを体験するコースがあります。その情報提供は、小学校等でもしているのでしょうか。積極的に子どもたちに知らせてあげたいと思います。新潟市ジュニアオーケストラ教室はかなり高いレベルにありますし、全国的にも非常に有名です。

新潟市では、8 月に全国のジュニアオーケストラの大会もあります。そういうところに積極的に参加できるよう、広報していただきたいと思っております。

豊栄地区公民館長

教育委員会ではございませんが、豊栄地区公民館からお答えします。

新潟市ジュニアオーケストラ教室については、豊栄地区公民館と北区文化会館との共催で行っている北区音楽祭にも出演していただいております。レベルの高い演奏をしていると感じましたが、コンサートの来場者は、高齢者が多めでした。子どもたちやそのご家族、小学校 5 年生や 6 年生の子たちにも積極的に周知し、新潟市ジュニアオーケストラ教室の良さを広めていく必要があると感じております。公民館としても、積極的に周知を図ってまいります。

産業振興課長

北区には、北区フィルハーモニー管弦楽団がございます。今回の「子どもと音楽の出会い創出事業」について補足させていただきますと、平日実施ということもあり、新潟市ジュニアオーケストラ教室のメンバーにご出演いただくのは難しいと思いましたが、北区フィルハーモニー管弦楽団には出演を打診させていただきました。しかし、平日の出演は難しいということで、お断りいただきました。北区フィルハーモニー管弦楽団でも、演奏者が育っておりますが、今回は難しいということでございました。

工藤委員

7番の地域「ひと・まち」パートナーシップ支援事業について伺います。

地域コミュニティ等へのタッグパートナーの派遣と書かれていますが、派遣のイメージについて伺います。例えば、コミュニティ協議会が実施する事業等に、各団体の要請に応じて、数名の大学生をボランティアとして派遣するというイメージで良いでしょうか。あるいは、地域の要望や要請に応じて、大学生が事業の企画にも携わるようなイメージなのでしょうか。

また、自治会などもう少し小さな単位の団体からの要請にも応じるものなのかどうか、お伺いします。

副区長

当事業の内容は、現在行っているものと同様ですが、スタディサポーターということで、新潟医療福祉大学の学生などを、自然文化祭のお手伝いなどに派遣してもらっております。また、単なる作業ボランティアではなく、企画運営にも関わってもらえれば、学生にとって勉強になるのではないかと考えております。

次のご質問ですが、コミュニティ協議会の単位ではなく、各自治会が事業をするにあたって若い柔軟な思考を活かし、学生の若い感性でいろいろな事業にも参画してもらえよう、各自治会からも声掛けや要請をしていただければと思います。

工藤委員

ありがとうございます。

川島委員

今の件でお伺いしたいのですが、今、南浜地区コミュニティ協議会では、学生に入ってもらい、企画や地域連携に取り組んでもらっています。学生でも車を持っている人もいますが、車を持っていない人は、送り迎えをする必要があることがありましたが、仕事の都合で送り迎えの時刻に間に合わないこともありました。ボランティア活動への交通費は、支給されるのでしょうか。

副区長

事業の運営自体は、新潟医療福祉大学に一括して委託する形をとっていますが、個々の学生には交通費実費として1,000円程度はお支払いしています。しかし、交通が不便

な場所からは、学生の希望もあってマッチングがなかなか難しくなる場合もあるようです。

交通費分の補助は、実費程度の 1,000 円ですので、少し遠くへ行くとなると見合わない場合もございます。また一部の学生から、ボランティアなので交通費はいらぬという声もあると聞いております。

真壁委員

学生が企画から参画することについて、学生の本業は勉強です。その時間を削ってまでやるのかという問題もあり、以前、地域の方と相談させてもらったこともありました。

文化祭などで企画から参加すると、負担が大きくなることに不安もあります。また、ボランティアを全学年に呼び掛けて募集しても、結果的に参加する学生は固定メンバーになりやすく、ボランティア部の学生が全て受けることもあります。いつもやっているから良いよね、と言われがちなので、なるべく学生の参加については詳細を詰めてからお話をいただくと、助かることもあると思います。

本間（久）委員

私は長年、公民館などで体操教室を 10 年ほどやっています。新潟医療福祉大学の健康スポーツ学科の先生に頼み、学生ボランティアを出してくれないかとお願いして、その取り組みも続いています。

基本的には 3 年生と 4 年生の学生が参加してくれます。就職活動に入ってしまうと、今後は 3 年生という形で、基本的には、こういう形でやってくださいとお願いしています。今 10 人程度で行っていますが、やれることをこういう形でとお願いすれば、学生もやってくれると思います。

内容としては、ストレッチとか筋力トレーニング、最近は脳トレーニングもやっています。どちらかという対象は、50 歳代や 60 歳代の人が多いです。

ただ、今は同じゼミの学生と継続的にやっているのですが、なんとかなっていますが、一度切れてしまうと、そのままになると思います。学生との繋がりをつくっておくと、継続してやってもらえるだろうと思います。ある程度、主催側が主導権を持っていないと、学生だけでは動いてくれないところはありますので、その辺は少し難しいところです。

岡委員

この事業は、最初に小中学校を対象に学生を派遣して、3 年前から地域にも広げてい

っています。今後はもっと地域に入るという流れかと思うのですけれども、先日、新潟青陵大学と新潟県立大学の学生が行っている「そらいろ子ども食堂」を見に行きました。この事業は、学生が自分たちでやりたいと言って始めたもので、企画から運営まで全部を見事なほどにやってくれています。やはりそれは、自分たちがやりたいからやっているためで、やってくれと言われてやっているのではないということでは言われていました。

地域で何かを頼む時には、やはりそこまで学生さんに負担をかけられない。しかし中には、企画から入りたい人もいると思うので、一律に厳しく決めないほうがいいと思います。

また、福島潟自然文化祭にも、ボランティアとして参加していますが、より地域に広げるとなると、どういう周知をするのでしょうか。

私たちも、学生に体操教室をやってもらっています。住民たちでお金を出し、学生には、交通費程度しかお支払いできていませんが、松浜だと、ござれや花火実行委員会などに入っている学生もいるのです。

地域や学生には、どのように周知するのでしょうか。

副区長

枠組みとしては、現在行っていることと一緒です。3年前までは小中学校だけだったのですが、学校だけではなく、地域の様々な活動にも学生を派遣していきたいという声を受け、今回から拡大したところです。

事業の中身といたしましては、同じ枠組みで事業名を少し変えましたのは、この区企画事業が3年間で一応区切る形になるためです。ただ、この事業は学校や地域からも非常に評判の良い事業です。それから、実際に活動している学生からもいい経験ができたという評価をいただいておりますので、継続して行きたいということでございます。

また、福島潟自然文化祭に参加していただいているのは、一例を挙げただけです。それだけでは当然なく、いろいろな場所に学生を派遣してもらって、学生と一緒に何か事業をやっていただければということでございます。

区長

ご心配されているのは、この制度について、学校や地域での周知が足りないのではないかとということですよね。

岡委員

分っている団体もあれば、全然知らない地域もあるので、不公平感があるのではないかと思ったのです。

区長

おそらく、ご利用団体がある程度固定化されてきていると思います。福島潟文化祭やござれや花火にも何人か来られていましたが、依頼した団体は別にあったようです。よく分らないのですが、先ほど、声掛けする地域コミュニティ団体は、自治会でもいいのですかというご質問があったように、地域の方々や各コミュニティの団体のすべてに情報が行き渡っていない面があるので、その辺はどういう形がいいのか。どのような方法が一番地域全体に浸透するのかということは、検討させていただきたいと思います。

倉島会長

ほかにございませんか。

ないようですので、ただいまご意見のありました事業の執行にあたりましては、十分配慮されるよう、委員の意見を付して回答することとしてよろしいでしょうか。

— はい の声 —

では、そうさせていただきます。

倉島会長

次に報告事項に移ります。

報告事項の(1)福島潟河川改修事業について、時間が残りわずかとなりましたので、こちらは、次回会議の報告事項とさせていただきます。

倉島会長

次に、(2)部会の会議概要について、各部会長からお願いしたいと思います。

本間(久)委員

地域づくり部会から、報告させていただきます。

先月、「ノーザンミュージックフェスティバル 2018」についての完了報告がありまし

た。ただし、グラウンドファンディングの返礼品の発送が終わっていないということでした。実際には既に終わっていると思いますけれども、その時は完了していなかったということでした。

それから、地域防災力向上事業については、12月に防災士養成講座の教室に8人参加する予定です。「防災士だより」のようなものを作ってはどうかという提案もありましたが、今後の検討とさせていただきたいということでございます。

阿部（美）委員

自然文化部会です。

先ほど話題になりました、福島潟のラムサール条約への登録に関してですが、現時点でどこがラムサール条約の登録地になっているのか分りにくいという意見があり、日本地図にマークして展示してみてもという意見がありました。

また、11月25日に『河童のユウタの冒険』にちなむシンポジウムがありました。「ユウタの棲家」の絵を大きなタペストリーにするのを、当日までに間に合わせたかったのですが間に合わず、原画の展示を行いました。

会場では、「ユウタの棲家」の模型が展示されていて、立体的になった「ユウタの棲家」を見ることもできました。パネルディスカッションには、若尾部会長も参加し、福島潟をどうしていきたいか、様々な意見を述べました。

また、来年度の委員提案事業「子どもと音楽の出会い創出事業」についても、いろいろな意見を出し合って、ぜひやりたいということで意見交換をしました。

倉島会長

福祉教育部会は先回開催されませんでした。ただいまの報告につきまして、何かございますか。

ないようですので、その他ということで委員の皆さまから何かございますか。

川島委員

「北区元旦歩こう会」と「第11回北区ふゆっこまつり」について、私はどちらも参加していますので、ご紹介させていただきたいと思います。

「北区元旦歩こう会」は元旦に行いますので、参加をお願いしたいと思います。6時15分から受付、豊栄総合体育館の隣の運動公園のゲートボール場に集まっただいて、6時40分に出発します。ぜひ元旦のすがすがしい朝に、歩いていただければと

思います。歩きに自信のない方は、のんびりコースという半分程度のコースもごさいます。例年のことですが、甘酒をふるまっていて、この甘酒が足りなくなるほど、参加人数は増えてきております。その甘酒も増量しておりますので、皆さんに行き渡ると思います。

また、「第 11 回北区ふゆっこまつり」は今年も新潟医療福祉大学で行います。こちらは 2 月 24 日です。地域の方には様子見だけでもいいので、見ていただければと思います。去年は、大盛況でした。

当日連絡先は、私の電話番号になっていて、問い合わせは既に来ています。学食が食べられるということですが、本当に食べられますか、等の確認の電話が何件かありました。また、なわとび大会があるのであれば行きたいというお子さんも、かなりおられます。今は、なわとびや鉄棒ができる場所がないということでしたが、このイベントでは、子どもたちの遊ぶ場がいろいろありますので、ぜひご参加いただければと思います。

皆さんにお願いもごさいます。今回、新潟医療福祉大学から言われたのですが、去年は、10 万円の暖房費がかかったということなのです。大学側の概算ですが、それらが大学の持ち出しになったということで、今年はせめて半分出してほしいということでした。今年は暖冬になるということで、それほど要しないかもしれませんが、できれば協賛をお願いしたいと思います。学生など若い人たちだと、協賛もなかなか集まりません。協賛いただける方はぜひともお願いいたします。私に、言っていただければと思います。

もう一つ、今はまだ 9 団体からしか参加希望がないということですが、例えば、コミュニティ協議会であったり、青少年育成協議会であったり、各団体で子どもの遊ぶブース等を考えていただけるようでしたら、ぜひご参加いただければと思います。

駐車場ですが、去年は新潟医療福祉大学の駐車場が満杯になってしまいました。今年度は、駐車場を拡張したということですので十分入れます。ご心配なく、ぜひご参加をお願いします。

倉島会長

ほかにごさいますか。

ないようですので、以上で予定された議題はすべて終わりました。